

ブルーライン急行運転の検討状況について

1 急行運転検討の経緯

市営地下鉄ブルーラインは、昭和 47 年 12 月に上大岡駅から伊勢佐木長者町駅間（5.2km）の開業以来、数度の延伸開業を重ね、現在はあざみ野駅から湘南台駅間（40.4km）の路線となり、市北部から横浜都心部を経て市南西部を結ぶ基幹鉄道として重要な役割を担っています。一方で、路線延長に伴い所要時間が長くなり、速達性の向上についてお客様等から期待や要望が寄せられるようになりました。

このような中、更なる速達性や利便性の向上を目指す取組として、平成 24 年度に策定した「市営交通中期経営計画」において、急行運転の実施に向けた検討を行うこととし、これまでに、現行設備の有効活用を基本とした急行運転の計画について検討を進めています。

2 急行運転の検討状況

(1) 実施時期

今年度から設備改修等を進めていて、平成 27 年 7 月に急行運転を実施したいと考えています。

(2) 運行計画

急行の運行時間帯は平日、休日とも 10 時～16 時の日中時間帯とし、1 時間当たり急行 2 本を計画しています。

所要時間は、全線（あざみ野～湘南台）で普通列車に対して最大で 10 分程度短縮できると考えています。

(3) 設備等の改修状況

駅の運行案内表示器や運行管理システム、車両の運転プログラム等の改修を進めています。

(4) 安全性の検証

局内で安全審査会を設置し、急行列車の駅通過速度や振動、列車風などについて検証するとともに、急行運転を実施している他の鉄道事業者から意見を伺い、安全性の検証を進めています。

(5) 急行運転の効果

急行運転の実施により、主要駅間の所要時分が短縮され、多くのお客様の利便性が向上するとともに、競合路線である他社線からの新たなお客様の利用が見込まれ、増収も期待できると考えています。

3 現状での課題

急行運転にあたり、速達性とお客様の利便性をいかに両立させるかが最大の課題であると考えています。

また、急行通過駅を利用するお客様へのサービス低下も課題の一つであり、運行本数や停車駅などについて更なる検討を進め、速達性の向上と併せて多くのお客様の利便性の向上につながるよう、運行形態について引き続き幅広く検討してまいります。